

序論

日本語においては、「命令形」という文型があり、その文が命令文であることを示すとして使われている。普通、命令の文型ともいう。庵（2000:146-147）によると「命令形」は話し手が相手に対して、権力を示す権限を持つ場合や関係に使う表現である。

本研究は「るろうに剣心追憶編」及び「るろうに剣心星霜編」というOVAにある「命令形」について分析する。「命令形」はその文は「命令文」を示すだけではない。なぜならば、話し手の社会的地位、場面、状況と文型により、依頼文でも、命令文若しくは「命令形」として見なされる。

石沢 (2002:80-81)によると、下記の様に命令形にはいくつかの機能を所有している：

1. 普通、年が上の男の人や地位が高い男の人に使われている。
2. 友達である男同士に使う。時に、依頼形に使われている。
3. 工場においての指示。例えば、地震、火事等という緊急事態の場合。
4. 命令を出す場合。
5. 運動大会で応援する場合。
6. スローガンや信号で。

文においての意味と使い方を説明する為に、この分析においては記述的分析方法が使われている。データはビデオから由来する為、データの収集は電子媒体での文献調査方法を使う。

本論

「命令形」である文はその文が使われる場合と状況から見られる。普通、「命令形」は動詞に付き、付かれた動詞は「命令形」の形に変化する。下記にて文例とその説明がある：

1. 飯塚 : すぐにここを出ろ!

Iizuka : Sugu ni koko wo dero!

Iizuka : Cepat keluar dari sini!

剣心 : どうしました

Kenshin : Doushimashita?

Kenshin : Apa yang terjadi?

飯塚 : 桂さんが危ない!

Iizuka : Katsura san ga abunai!

Iizuka : Katsura dalam bahaya!

(るろうに剣心 追憶編 : 21.54)

「飯塚」は「すぐにここを出ろ」という命令形の形を使う話し手であり、その命令形の聞き手は「剣心」であった。「飯塚」は剣心の仲間で、「剣心」と同じ組の者であった。そのとき、「剣心」は自分の組での新人である「巴」に話していた。真面目に話していた際、飯塚は店の入り口から入り、「剣心」と「巴」その店からすぐ出る様に、叫んでいた。緊急な事態の為、「飯塚」はそれに対して反応し、つい、厳しい命令形を

使ってしまった。このことは「剣心」と「飯塚」は同じ地位であったし、緊急な場面であった為、許されることと見なされる。「飯塚」が言った「出ろ」という命令形の辞書形は「出る」である。「出る」は「出ろ」という命令形となった。

2. 薫 : 人きりに戻らないで。

Kaoru : Hitokiri ni modoranai de.

Kaoru : Jangan kembali menjadi pembunuh.

剣心 : 薫どの。

Kenshin : Kaoru dono..

Kenshin : Nona Kaoru..

(るろうに剣心 星霜編 : 18.41)

このセリフには「戻らないで」という命令形がある。「戻らないで」は「戻り. 「戻らないで」は「～ない」という未然形がある為、「戻ることするな」という意味を持つ。「薫」と「剣心」の社会的地位は同じ為、「薫」は未然形からの非公式の文を使った。

3. 巴 : 私何を?

Tomoe : Watashi nani wo?

Tomoe : Apa yang harus kulakukan?

女1 : そこのお芋さんの皮、頼むわ

Onna 1 : Soko no oimosan no kawa, tanomuwa

Onna 1 : Tolong kupas kulit kentang yang ada disana!

(るろうに剣心 追憶編: 12.30)

そのとき、「巴」は自分の仕事を終えた為、彼女達を手伝う為に、何をすればいいのかを確認した。「女 1」は芋を剥くことを手伝って欲しい為、すぐ回答した。ここでの命令形は「お願いします。」という意味を持つ「頼むわ」という文で示されている。

結論

「命令形」の形の使い方は文の構成やその「命令形」が使われた場面と状況より見ることができる。「命令形」は動詞が「～ろ」形に変化する形であるが、文にある命令形はその形だけ使うわけでもない。上記の文例に見られる様に、「～ない」という未然形も、社会的地位やその形が使われた場面と状況により、「命令形」として見なされることができる。「頼む」等という依頼形も、話し手は誰なのか、その文が使われた場面と状況により、命令形として見なされることができる。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	.ii
DAFTAR ISI.....	iv
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah.....	4
1.3 Tujuan Penelitian.....	4
1.4 Metode Penelitian.....	5
1.5 Teknik Penelitian	7
BAB II TINJAUAN PUSTAKA	
2.1 Masyarakat dan Bahasa.....	8
2.2 Sociolinguistik.....	9
2.2.1 Definisi Sociolinguistik	9
2.2.2 Masalah Sociolinguistik	10
2.3 Faktor Sosial dan Dimensi Sosial	12
2.3.1 Faktor Sosial.....	12
2.3.2 Dimensi Sosial.....	13
2.4 Bahasa Sebagai Alat Komunikasi Sosial	13
2.5 Bahasa dan Kalimat	14
2.6 Jenis-jenis Kalimat.....	14
2.7 Hubungan Kalimat Imperatif dengan Tata Bahasa Lisan	17
2.8 Kalimat Imperatif.....	18
2.9 <i>Meireikei</i>	18

BAB III ANALISIS DATA

3.1 Kalimat <i>Meireikei</i> Antar Teman	20
3.2 Kalimat <i>Meireikei</i> Antara Guru dan Murid	30
3.3 Kalimat <i>Meireikei</i> Antara Atasan dan Bawahan.....	32
3.4 Kalimat <i>Meireikei</i> Antara Wanita dan Pria.....	37
3.5 Kalimat <i>Meireikei</i> Antara Musuh dan Musuh	42
3.6 Rangkuman Analisis	52

BAB IV KESIMPULAN	62
--------------------------------	----

DAFTAR PUSTAKA	64
-----------------------------	----

SINOPSIS	vi
-----------------------	----

LAMPIRAN DATA	x
----------------------------	---

RIWAYAT HIDUP	xvii
----------------------------	------

